

記者発表(発表・資料配布)				
月/日 (曜日)	事務所等名	電話	発表者 (担当者)	配布先
8/2 (金)	県立農林水産技術総合センター (病虫害防除所)	0790-47-1222	病虫害防除所長 (望月 証)	県庁記者クラブ 北播磨県民局

**令和6年度病虫害発生予察注意報 第2号**  
**「斑点米カメムシ類の発生状況と防除対策」について**

兵庫県立農林水産技術総合センター(病虫害防除所)が実施した巡回調査や予察灯調査において、平年を大幅に上回る斑点米カメムシ類の発生が確認されました。今後の気温は平年より高く推移すると予想され、水稻への加害が懸念されることから「病虫害発生予察注意報第2号」を発表します。水田での発生状況に十分注意するとともに、出穂状況に合わせた防除対策を徹底しましょう。

記

- 1 対象作物 水稻
- 2 病虫害名 斑点米カメムシ類
- 3 発生地域 県内全域
- 4 内容 詳細は別紙「令和6年度病虫害発生予察注意報 第2号」のとおり

兵庫県立農林水産技術総合センター(病虫害防除所)は、農作物を加害する病虫害の発生状況を調査するとともに、その後の発生を予測し、普及指導員やJAの営農指導員等に「予察情報」として提供しています。また、農業生産現場から持ち込まれた病虫害の診断も行っています。

農技第1569号

令和6年8月2日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察注意報 第2号を發表します。

巡回調査や予察灯調査において、斑点米カメムシ類の多発生が確認されています。水田や畦畔での発生状況に十分注意し、防除対策を徹底するようご指導願います。

---

### 令和6年度病害虫発生予察注意報 第2号 斑点米カメムシ類の発生状況と防除対策について

- |            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| 1 対象作物     | 水稻                                   |
| 2 病害虫名     | 斑点米カメムシ類（イネカメムシ、ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ等） |
| 3 発生地域     | 県内全域                                 |
| 4 発生程度     | 多い                                   |
| 5 発生時期     | 8月上旬～9月下旬                            |
| 6 発生状況について |                                      |

(1) 7月下旬に実施した水稻巡回調査（23地点）において、すくい取り調査による斑点米カメムシ類の発生地点率が73.9%と、昨年同時期（地点率50.0%）と比較して高く、県内で広く発生が確認されている。

(2) 加西市と朝来市の予察灯では、大型斑点米カメムシ類（イネカメムシ、ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、写真1）の誘殺数が平年を大きく上回っている。イネカメムシの7月の合計誘殺数<sup>※1</sup>は、加西市で126頭（過去8年平均<sup>※2</sup>2.4頭）、朝来市で15頭（過去8年平均1.1頭）となり、過去8年の誘殺数と比較して最も多い（図1）。また、加西市ではミナミアオカメムシの7月の合計誘殺数<sup>※1</sup>が105頭（過去10年平均<sup>※2</sup>9.4頭）、クモヘリカメムシが7頭（過去10年平均0.5頭）となり、いずれも過去10年の誘殺数と比較して最も多い（図2）。

※1 加西市の予察灯は7月29日時点、朝来市は7月20日時点の誘殺数

※2 過去平均はいずれも7月1日～7月31日の誘殺数

- (3) 7月上旬から中旬にかけて、県下各地の水田で出穂の有無にかかわらずイネカメムシの発生が確認されている。特に、地域内で出穂が早い水田では本種が多発し、成虫が穂を加害する様子や次世代幼虫の発生が確認されている。また、ヒエ等の雑草が水田内や畦畔に繁茂している地点では、イネの出穂前でも7月下旬に幼虫の発生が確認されている。

## 7 今後の発生予想について

- (1) 気象予報によると、今後1か月の気温は高く推移すると予想されており、出穂期以降の水田では、斑点米カメムシ類の加害（写真2）及び繁殖に好適な条件になると考えられる。
- (2) イネカメムシは出穂期の稲穂に強い選好性があるため、出穂に合わせて水田に侵入する。地域内での出穂が早い水田で本種が多発している場合は、今後、隣接する出穂が遅い水田でも本種が多発し、穂を加害する可能性が高いと考えられる。

## 8 防除上の留意点

- (1) 畦畔や休耕田のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類を誘引し、増殖源となるため、適切な除草管理を行う。なお、出穂直前に畦畔の管理作業を行うと本種を本田内に追い込むことになるため、出穂の2週間以上前に雑草管理を行う。また、水田内のヒエ等の雑草についても本種の誘引源となるため、速やかに除去する。
- (2) 斑点米カメムシ類の薬剤防除は、穂揃い期から乳熟期にかけて行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。なお、粒剤を施用する場合は、防除効果が得られるまでに日数がかかることを考慮する。
- (3) イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させる（写真3、4）など収量への影響が大きいいため、出穂期に水田内で発生が見られる場合は薬剤防除を検討する。本種の防除は、出穂期とその7～10日後の2回防除が不稔と斑点米の被害抑制に効果的である。
- (4) イネカメムシについては、周辺より出穂が早い、または遅い水田では集中して被害を受けやすいため、適切な防除を行う。また、本種は夜行性で、数日のうちに水田へ大量に侵入することがあるため、発生状況には十分注意する。
- (5) ミナミアオカメムシは広食性であるため、水田だけでなく、周辺のダイズや野菜類圃場にも発生する可能性があるため、発生状況に注意する。
- (6) 薬剤散布を行う場合は、農作物病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。



写真1 予察灯での誘殺が多い大型斑点米カメムシ類（各写真の右下は幼虫）



写真2 斑点米カメムシ類による斑点米被害

（左）イネカメムシによる斑点米被害。籾の基部を加害することが特徴。

（右）イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類による斑点米被害。



写真3 出穂期のイネに多発するイネカメムシ



写真4 イネカメムシによる不稔被害(青立ち)

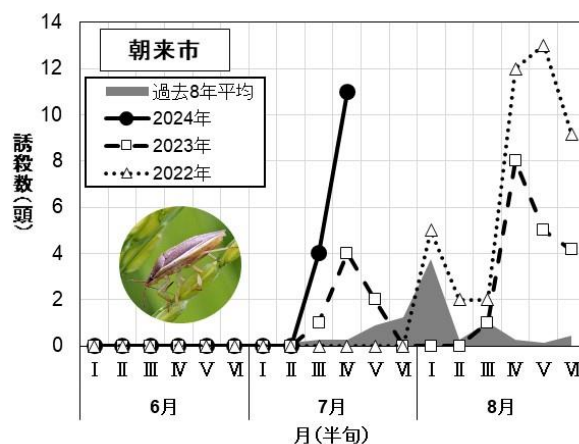
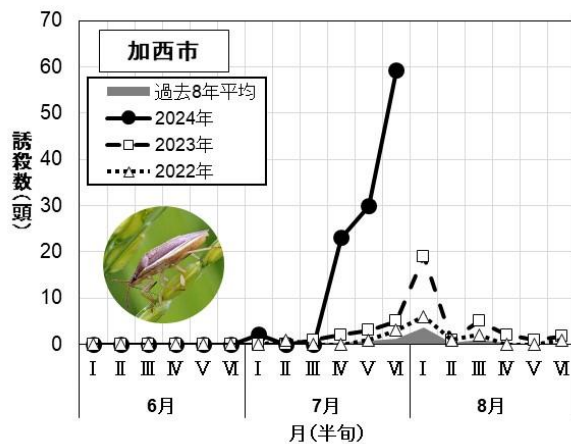


図1 予察灯におけるイネカメムシ誘殺数

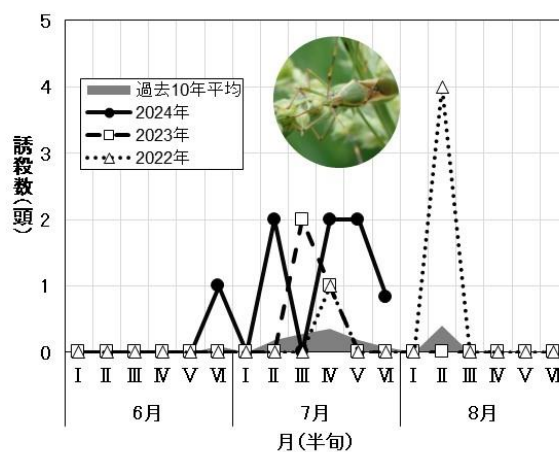
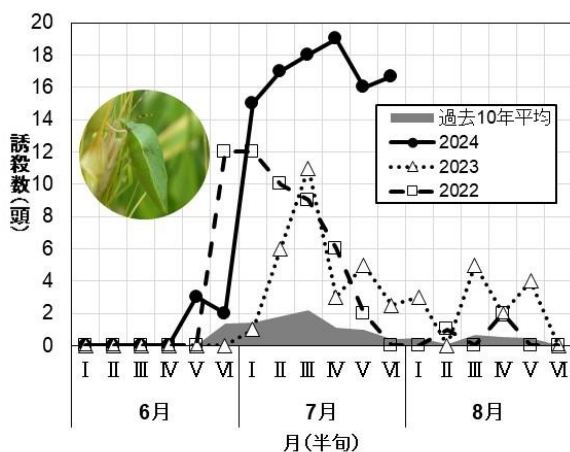


図2 加西市の予察灯におけるミナミアオカメムシ（左）、クモヘリカメムシ（右）の誘殺数

\*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bo.jo.hyogo-nourinsuisange.jp>

\*農作物病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

\*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)を開設しています。

発生予察情報など病害虫に関する情報を速やかに提供しますので、是非フォローお願いします。

Xアカウント ([https://twitter.com/hyogo\\_boujosh](https://twitter.com/hyogo_boujosh))

